

ジオパークガイド養成講座2020 8コマ目 受講者回答集

設問3 「あなた自身（あるいはジオパーク構想が）ジオパーク活動をやって何が期待できると思いますか？（何の目的のためにジオパークをやるのでしょうか）」

受講者 1

1の問いに対する解答と重複する部分が多いと思いますが、大きな目的としては「私達が持続可能な社会を構築して生きていくため、自然とのつながりを知ること」だと思っています。なお、ここにいう「私達」には、人間だけでなく動植物など様々な生命も含まれます。

私達の文化や歴史は、地域の自然環境（海や地域の気候、森林など）を素地として生まれ育まれてきました。さらに、これらの自然環境は大地の地形や地質、それらの活動から生み出されてきたものです。この「私達と大地とのつながり」を、特に以下の2つの視点から認識することが重要だと感じています。

1. 人類はかなりのテクノロジーを発展させてきたが、依然として自然の恵みから離れては生きていけないこと。

2. 人類が理解している大地の動きや変動はほんのごく一部であり、地球の45億年…と言わないまでもほんの数万年程度の範囲であっても、その歴史を振り返れば今後どんな大きな変化、いわゆる災害が起こるかは予想できないこと。

いずれも、長期に持続的な社会を構築していくためには、欠かせない視点だと考えています。一方、現在の社会、特に資本主義型経済を採用している国においては、自然に与える影響や起こりうる災害に目をつぶって目先の利益をあげることが優先され、結果的に資源やエネルギーの浪費、環境汚染、また潜在的に大きな危険性がある事業や活動が行われていると感じています。私達がまさに自分の足元を見失っていることに起因している用に感じます。

ジオパーク活動を通じて、これらの大地や自然とのつながりを私達が再認識し、さらには社会や経済のあり方を見直すことにつなげていければと考えています。そのためにも特にジオパークやその活動については、あくまでも受け入れられやすい「楽しさ」、「面白さ」を入口とし、ツアー後には上記のような大地や自然とのつながり・恩恵に少しでも気付くきっかけを提供できるようなツアーの造成、提供などに取り組んでいきたいと考えています。

受講者 2

私は、三好ジオパーク構想や他の地域のジオパーク活動からツアーガイドとして様々なことを学ぶことができるものと期待しています。

私は、日本の本当の魅力は大都市ではなく地方都市にこそあると考えていましたが、今回、三好ジオパーク構想のプチガイド養成講座、ジオパークガイド養成講座を受講することで、ジオパークは地方都市の魅力の源泉の一つであることが良くわかりました。

その地方の風景を形作る土地、生育する動植物、それらを上手に生かした特産物や伝統的な食事、その土地で過去から営まれてきた人々の生活、伝統行事、民話や歴史など、一つ一つがジオパークを通じて関連付けて物語ることができるということです。さらには地球のダイナミックな活動による世界や日本列島の成り立ちに視野を広げていくことができるテーマであり、世界のどの国の人にも共感していただける部分だと思います。

ガイド活動ではお客様に対して、自分の言葉で分かりやすく情報を伝えることが大切ですが、その基礎になる情報は専門家やその土地の人から学んだ正しいものでなければなりません。またツアーにおける気象条件、訪れる場所の地形、生物によるリスクなどを把握し安全を確保するための知識や情報も、現地での確認が重要です。そしてその土地ならではの歴史やストーリーは地元の人から伺って、自分なりに咀嚼してこそ、お客様に興味を持ってもらえるようにお伝えできると思います。今日ではインターネットを使ってある程度の情報や写真を手に入れることができますが、それらは私たちガイドと同様にお客様も事前に調べて知ることができるものです。したがって、ガイドとしては実際に現地を訪ねて得られる感動や、記憶に残る体験をお客様に提供することが重要です。そのために必要なものが、ジオパーク活動から得られるものと期待しています。それらは、通訳ガイドの活動を続けて行くうえでも貴重な財産になるものと感じています。

受講者 3

私達がジオサイトやエコサイトの大切さを改めて認識することにより、より確実な保全が図れます。歴史をたどり、「生き物と環境の関係性」を考え、利便性のため様々な自然や環境を破壊すること無く、環境を保全、共存しなければなりません。ユネスコジオパーク構想の名の下、「意識改革」図り、さまざまなアプローチ（研究、教育文化、地域産業と連携する観光ジオツーリズム）を通じて、三好市地域の地質学的特徴、文化、歴史、及び地域の持続可能な発展を世界に発信できればと思います。

受講者 4

三好市ジオパーク構想では、「ジオパークって何？」の中では、・・・ジオパークは、「大地（ジオ）をベースとし、それと関わる特徴的な生態系や歴史文化などのつながりを通して、地球を学び、まるごと楽しむことにできる場所です。」・・・と説明している。

しかし、先日開催された「インタープリテーションガイド研修」の中で、「ジオパークとは何か？」の説明では「大地がくれた地域のお宝」そしてその「お宝を再発見」「お宝を上手に活用」することであると伝えられた。

ジオパークへの入り口で、私も「ジオパークとは何か？」を自分なりに考えた時に分かりづらかったが、研修での説明によりストーンと頭の中で理解できた気持ちになった。

三好市にも非常にすぐれたジオサイトが存在するが、特徴をよく理解して、まるごと楽しみながら、それらの点を面にして、そして立体にすることが重要である。

何の目的のためにジオパークをやるのか？については、構想にもあるように、「各ジオパークやエリア内の地質地形の遺産を保全しながら、それらを持続可能な形で教育・防災・ツーリズムなどに活用しています。これを継続していくためには、行政や研究機関だけでなく、地域住民など、みんなで考えて活動していくことが大事です。」としている。

そして、構想のテーマは、「大地の切れ目が作り出す、山地山脈と吉野川の流れ」として、「中央構造線」の存在がなければ今の三好市の風景は存在していませんでした」と記述しており、三好市のジオパークの核は、「中央構造線」であることの共通認識をもつことが最重要課題である。

現在、コロナ禍の中で活動は制限される部分はあると思うが、「おすすめジオサイト創り」や「双方向での提案型ジオツアー創り」「子ども向けジオパーク物知りテスト開発」などを提案したい。

私としては、「山城妖怪村」は面白いジオサイトと考える。

三好市もSDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の推進を掲げており、目的・目標の共通点もあるため連携して進めていくことで「お宝を再発見」「お宝を上手に活用する」ことができるベストな方法と考える。

受講者 5

何の目的のためにジオパークをするのか。わたし自身は地形によって異なる地域の文化や生活様式に興味があったので、少し勉強してみたいというのがジオパークへの入り口でした。人のためよりも自身が興味関心を持ったからです。三好ジオパーク構想についてはこれまであまり深く考えたことはなかったのですが、単に地域振興のひとつだと思っていました。県外や海外から多くの人を訪れることで経済活動が活発になり、地元の雇用創出や若者定着に繋がります。また防災教育にも関連しているので多くの方に興味を持ってもらいたいです。

受講者 6

一般的には、設問2で述べたとおり、ジオパーク登録したことにより、地域の人たちにとってプラスになる、経済面もあるが精神面においても。

例えば、自分の住んでいる地域の良さがわかり、そこに住むことに誇りが持てる、又、古い文化・ものを大切にすることを育む、住む地形の特質を理解し災害に備え、防災に役立てる等、観光で観光客も大事だが、一番はそこに住む人である。その為のジオパーク登録であってほしい。

私は現在、香川大学生涯学習センターでジオの講座を受講して、香川大学認定ジオガイドをしている。ジオを勉強し、ガイドをして何が一番かと言えば、自分自身が一番楽しいことである、地元の知らないことがわかり、郷土の知識が豊富になる。

そうすると、次に「こんな良いところがあるのだ、他にない貴重なものがここにあるのだ、こういう理由でこの産業が栄えたのだ」など得られた知識を他の人にも知ってもらいたいと思う。そして少しでも多くの人に知ってもらい、地元で愛着を持ってもらえたらと思っている。

私は、山登りが好きで里山に多く登っているが、里山とジオとは非常に親和性があり、ジオを知って里山に登れば面白さがぐっと増してくる。その面白さを広めるためにも、身近なジオサイトを山仲間を紹介したい。

ジオサイトがジオパークとして系統立てられていれば、一般の人に対してもより効果的に紹介できるし、ジオサイト探訪、地形観察などの活動ができると思われる。

受講者 7

三好ジオパーク活動をすることによって

三好ジオパーク構想にとって

- 1) 三好市の地質/地形・生態系・文化・歴史を全国・全世界に周知させる
- 2) 全国・全世界に周知されたら、観光客が内外から訪れ、三好市の町おこしになる
- 3) 観光客からの収入/税収が増え、ジオパークの保全・管理の資金にもなる
- 4) 地質/地形は自然の雄大さだけでなく、地震や災害の研究/対策にもつながる
- 5) 特に地震・災害研究/対策に関しては地元住民の方々の認識と防災にもつながる
- 6) 地元住民の方々が普段自覚していない豊かな雄大な自然やジオパークの持つ文化的歴史的価値を再認識することが出来る。

自分自身にとって

- 1) ガイドとして知識を深めることが出来る
- 2) 自分の知らない日本をもっと知ることが出来る
- 3) 最も不得手な自然、地形・地質を身近に感じられるようになる
- 4) 他の国とのジオサイトの比較が出来る
- 5) 三好ジオパーク構想に関しては特に中央構造線を肌で感じる事ができる
- 6) ガイドとして様々な人たちと会い、感動を与えられるかもしれない
- 7) 自分の個性を知ることが出来る

実際このジオパーク養成講座を受けることが出来た。

受講者 8

この地質・地形の特徴，それに影響を受けた生態系，そして「特有の自然環境の中で生まれた歴史文化は三好ジオパーク構想の宝です。三好ジオパーク構想では，これらのつながりを知り，地域資源を守り活用し，そして自然災害を乗り越えながら，これらの宝を将来につなげるための活動を私たち地域みんなを始め，民間団体，行政，研究者が一体となって行います。「この地を誇りに思い，この地で生きぬく」ために，ジオ（大地）をもとにした地域資源のつながりを存分に活用し，三好のジオパーク構想ならではの持続可能な社会を実現します。

この文章から，その先に，何が見えてくるのかを想像する事も出来るし，反対に何を期待して，ジオパーク構想に取り組むのか，はすでに大前提にあると思います。

- 1 私は，2 コマ目に書きましたが，将来につないでいくために・・・10年後，その先も三好が生き残っているために。具体的に何を進めるか・・・何が出来るか，何をしなければいけないかを考えたのも，これを始めたきっかけでは？と思っています。
- 2 地域の宝を伝えたい，という基本理念に大賛成です。「この地を誇りに思い，この地で生きぬく」ために，ジオ（大地）をもとにした地域資源のつながりを存分に活用し，三好のジオパーク構想ならではの持続可能な社会を実現する。という意識を持って，住民が生きぬいていく素敵なストーリーが浸透している町」を目指すべきだと思っています。「そして，それは，住民の笑顔にある！」というストーリーまで，描き切ることです。
- 3 自分自身が、この取り組みを少しずつ理解する中で，地域の大地の成り立ち・自然の営み・人が紡いできた歴史のストーリーが大好きになりました。人が生きることには，この気持ちはとても大事なことです。気持ちがぐらついた時にぐっと支えてくれる糧ともなるからです。

災害やSDGsの視点にも対応しているので，地元の良さを住民自身が再発見して，心豊かに安心して暮らす→他の地域の人にも認めてくれて，人が大勢来てくれて，プラスアルファの産業の創出，物も少しずつ売れるようになって，雇用の創出，町に地域に賑わいが見られるようになったら言うことなしです。しかし，それぞれが自分の役目を果たし抜いて，得られる結果だと思っています。

住民は自然災害にあってもめげないで、強い意識を持って，生活・地域づくりの中に持続可能な取組を続けています。意識が徹底していて，皆が地域の事をよく知っていることも，強みです。一人で悩まず，大きなネットワークの中で活動出来ているという実感が欲しいです。皆が発信者になりうることも，通信環境が抜群のこの地ならではの強みと言えます！悩まないで，皆と一緒に進んで成功させたいです。

受講者 9

全国通訳案内士である以上、訪日外国人に日本の姿を多方面から理解してもらいたいと考えています。日本人と大雑把にまとめて話すことよりもこの国の地質や気候が国民性に影響を与えていることを語りたいと思います。そのためジオパークの活動をして、地質と文化への理解を深めたいためこの活動に取り組んでいます。

このコロナが収束して、訪日外国人がまた日本を訪れるようになれば、ガイドブックに載っている観光地だけでなく、SDGs の観点からも地元が生き生きと活動するジオパークエリアへの案内ができると思っています。

現在、数は多くはありませんが、祖谷やお遍路の魅力を発信している外国人もいらっしゃいます。その方々のようにこの国の自然と人を好きになってもらいたい、そしてまた来たいと思っていただきたい、その思いで仕事をしています。

ただ、現状を思うと外国人だけを対象にせず、日本人訪問者も対象にすべきだと考えます。私が三好市でジオガイドができるように研鑽を積みたいと思います。

受講者 10

ジオパーク活動は地球が作った自然の公園や宝を国内外の人に見ていただき地球の過去から現代の姿になるまでのことを伝えるのがジオガイドだと思います。又ジオパークであると思います。例えば（三好の北側を東西に横切っている”大地の切れ目“中央構造線。大歩危小歩危の礫のことなど）と言っても地質の研究されている先生方のまとめたやつを、その地域に住んでいる方つまりジオガイドである我々がお手伝いをしていけば良いのでは！！

また、広い大地を駆け回る先生のお邪魔にならぬようにお手伝いできればなればよいが他にも各学校に出前授業などをして小さい時から地域のことを学んでいただき興味を持っていただけたら嬉しいです。

受講者 1 1

ジオパーク活動の目的について、3つの点を考えました。

1. 今見えるものだけでない歴史や文化を体系的に知ってもらう
2. 自然災害に対する知識を備える
3. 今後持続可能なジオを継承してもらう

1については、特にジオサイトにおいて、今そこに見える景色を楽しむだけでなく、その成り立ちや歴史を知ればその景色の見え方が違ってくると思います。私自身、讃岐山脈という言葉と位置、外観は知っていましたが、その成り立ちについては学んで初めて知りました。それにより、讃岐山脈単体だけでなくその周囲の地形、その地形ゆえに形成された集落や人々の暮らしまでつながり、体系的に理解することができました。また地形がどう変化してきたかを知ることは、今後どう変化していくのかを考えることにもつながります。これは目的2にも関連しますが、今後起こりうる自然災害にどう対応していけばいいのかを考える機会にもなります。3の目的については、エコサイト、カルチュラルサイト共に、どのように継承していくのか、いけるのかを地域の方々をはじめ、観光で訪れた方、なるべく多くの方に考えてもらうことで、三好独自のサイトの維持継続に役立ちます。特に子供や若い方に伝えることで、今後貴重なジオを持続可能なものにすることができると思います。

受講者 1 2

三好ジオパークガイド養成講座を受講している目的は、三好市を正しく知るため。全国通訳案内士として自分のホームである四国のひとつの地域として、大地の成立ちから始まり、動植物や生態系、そこに集積してきた移り行く歴史や産業、その中で生まれ引き継がれてきている伝統や文化を、正しく知るためだ。

自分で町史や村史などを読んでも、自分が知りたいことはおそらく当たり前すぎて記述されておらず、まして高いところから地域全体を俯瞰して捉えることは難しい。プチガイド養成講座およびガイド養成講座では、地質専門員をはじめ地元の錚々たる方々がよく準備された講義を行ってくださり、受講生からの質問にもていねいにご回答くださったおかげで、三好市への理解はかなり深まったと思う。とても感謝している。

ユネスコ世界ジオパーク活動の 4 本柱は①地球遺産の保全②知る・考える（教育）③持続可能な形で活かす（ツーリズム）④防災（この特有の地で生き抜く）だ。下村さんは「ジオパークは大地がくれた地域のお宝」と表現された。同感する。大地があって人々の暮らしがあるからだ。

また④に関連するが、西谷さんが共有してくださった 64 歳のご友人の言葉は重かった。「災害の原因や過去の歴史を学ぶことで目の前の惨状を越えて見えて来る未来があり前進する力が生まれて来る気がします。ジオパーク活動の意義や深い価値はそこにあると信じています」。

認定の有無にかかわらず、大地の成立ちが世界中でここだけである特徴をまず理解し、明快に説明できるようになりたい。これができれば、その上に成り立つ自然、その自然の中で育まれてきたひとの文化や歴史の説明はついてくると思う。膨大な時間と根気が必要と思うが、各ジオパークを訪れて実際のガイドを楽しく体験していけば、学びは真似び、道は開けてくると思う。ものを言わない大地や自然や歴史や文化をわかりやすく言葉に出して伝えていただき、お互いに楽しい時間を過ごせればと思う。地域経済へも多少とも貢献できればとも思う。

受講者 13

一言で言えば「そこにジオパークがあるから」。通訳案内士は、先ず「見えるものについて説明」をする事を期待される。(勿論見えないものも重要だが)

そして、これは今回このお講座により、深く学ぶ事ができたのだが、SDGsの理念に深く関わる活動である事。世界の諸問題は、待った無しの重大局面に来ている。一人一人が自覚し、できる事を考えなければならない。たとえ大河の一滴であろうとも、目の前にある課題を「毎日少しずつ、焦らずに、気長に」行う事で、そして、その力が合わさる事で「岩をも穿つ」力ともなる筈。その為には仲間が、横の連帯が必要である。

七コマ目の、Zoomでの皆様との出会いはコロナ禍の、この様な状況であるからこそ、誠に貴重なものであった。日本の各地で、その才能をフルに生かし、素晴らしいメッセージを発信している「同士」の存在を目の当たりにできる事は、大きな力になる。誠に嬉しい、ワクワクする刺激を頂いた。この様な機会を作って下さった三好の関係者の皆様に、心からの感謝の意を表したい。

コロナ禍で、全く先が見えない。私の大部分のお客様のお住まいであるフランスは「泥沼状態」。自分は悲観的な方ではないが、彼の国の状況を見ると、果たしてインバウンドが再開するのか、とまで思ってしまう。(過去の例では、伝染病は「いつかは」終息する、そうであるが) それでも、他の雑事を済ませながら、生きる為の収入を確保しながら、仕事の再開を待ち続ける理由は「人との繋がり」、に尽きると思う。旅行業の醍醐味は(少なくとも私にとっては)、そこにある。普通の生活を送っている限りでは、けして出会う事は無かったであろう、海の向こうのお客様との出会い、熱い会話のやり取り。時には、それが私の人生の見方を変え、一生のお付き合いとなる事もある。ご注文がある限りは、体が続く限りは、この仕事を続けてゆく事になろうかと思う。

私にとっては、その一部が、ジオパーク活動となる。更に、ジオパークの雄大な風景は、心を開放する。「命の洗濯」であり、癒し、明日へのエネルギーを与えてくれるものである。長年この仕事を続け、「天下の絶景」(国内・海外の)を日常的に目にするお蔭で、その美しい風景が脳内に焼き付けられ、可成りな頻度で、夢に見る(例えばスイスアルプスの光景、富士山等)。目覚めてからも、長い事快い余韻に浸る事ができる。お客様と共に、この喜びを共有したい。

受講者 1 4

私がジオパーク活動に期待することは簡単に言えば「市民一人一人が地域の魅力を再発見し、その魅力を生かすための取り組みをすることで地域が活性化し、誰もが生きがいを持って生活できる」ようになることである。

ツーリズムでいえば、これまでは観光スポットを交通機関を使って移動する。そこで観光や体験を終えれば次の観光スポットへ移動する。いうなれば「点」の観光ではない。ジオパーク活動でツアーガイドをすることによって1時間~3時間程度歩くことになる。

これによって「点から線」の観光へと変容していく。さらにジオパーク内の各サイトを巡ることにより「線から面」へと広がりを見せる。そのことにより見学だけでなく体験活動などと組み合わせることが可能となり、お客様に三好での滞在時間を延ばしていただくことが可能となる。そうすることで、飲食業や場合によっては宿泊業が潤い、地域の特産品をお土産として購入していただけることも考えられる。農業や林業従事者が新しい収入源を見出せる可能性が広がっていくのではないだろうか。ジオパーク活動は観光客にお金を使っていただくためには時間を使っていただくという原則の具体化であると確信している。

今、観光のスタイルが変化していることを実感している。「移動型から滞在型」の慣行である。三好市内を多くの観光客が歩くことになれば、必ず地域の方々に道を尋ねたり、地元の人しか知らない情報を知りたがる。そんな時に市民一人一人が自信をもって三好の魅力を伝えることができるようになれば、人々の表情も明るくなっていくと思っている。

「地域の魅力を再発見し、その魅力を生かすための取り組みをすることで地域が活性化し、誰もが生きがいを持って生活できる」ようになることを目的として活動したい。

受講者 15

三好地区の自然環境を学び、自然遺産の大切さを理解する良き支援者になりたい願っている。私は三好市に居住する者ではないが全国通訳案内士の業務を通じて日本文化、歴史そして関連する日本固有の自然環境をご紹介する役目を担っている。日本を訪問される海外からのお客様にその地域に暮らす日本人の歴史的背景を伝えていけることはとても重要な責務でそういう役目を担っていることは幸せなことだと考えている。三好市では三好地区のジオパークとしての認定獲得に向け努力を積み上げ活動の輪を広げつつある。「三好ジオパーク構想」の告知 Web サイトの運営により各種活動への参加者を積極的に募っておられる。

私は 2019 年 5 月に香港の旅行企画会社の代表者と共に東祖谷地区を訪問する機会があった。三好市地域の豊かな自然環境、ユニークで歴史的背景の深い文化を持つ地域であることに魅了された。本来であれば正式なツアーとして昨年 5 月、10 月に東祖谷地区を含む三好市の複数のスポットをご案内するツアー計画があったが日本国内でのコロナウィルス感染拡大が広まりツアーは中止になった。しかしそれが契機となって昨年、三好市プチガイド講座を受講できたこと、そしてより良いご案内をすることを目指して今回三好市ジオパークガイド講座を受講させていただいている。おかげ様で三好市の自然、歴史、文化を幅広く深く勉強する機会をいただき感謝している。地域の良き理解者及びファンを増やして行くことで三好市のようなジオパークに相応しい自然資産を持っておられる地域の活動を支援できると考えている。遠隔地からではあるが私も積極的に活動の輪に入って行きたいと考えている。

受講者 16

ジオパーク活動における教育やジオツーリズムは、地質・地形が生物・生態系と密接に関係し、人間の歴史や文化にも影響を与えているという事実を多くの人に伝えることになるので、活動を進めることによって、地質・地形の保全の必要性を広く人々に認識してもらえるようになると思います。こうしたジオパーク活動を行うことで、地域環境の保全に対する取り組みが強化され、地球遺産として後世に引き継ぐことが可能になりますし、地質・地形の恩恵を持続的に得られるようになるので、雇用創出や地域経済の活性化も期待できます。さらに、土地の特徴を知ることにより、地すべりや川の氾濫など、その土地に起こりやすい災害についての知識が深まり、地域の防災への意識を高めることにもつながります。

また、私がこの活動に参加することによって期待できることとしては、まず外部に住む人間として客観的な視点で活動に貢献することだと思っています。仕事柄、全国各地の観光地に行く機会が多いので、他地域の優れた取り組みを見つけてご紹介するとか、地域に生活している人にとっては当たり前のコトやモノでも、旅行者にとっては大きな魅力となるような体験型ツーリズムや地元の特産品の開発など、地域の魅力再発見に貢献できるのではないかと考えています。PR 活動においても、情報を多言語対応にすることで国内外への発信力を高める一助になれると思います。さらにコロナ禍終息後インバウンド向け観光事業が再開されれば、通訳ガイドとして再びフランス人の団体ツアーに同行して案内する機会も増えると思いますし、個人のお客様に対しても積極的に三好市をご紹介していこうと思っています。三好市プチガイド養成講座と今回のジオパークガイド養成講座によって得た知識や経験をもとに、ガイディングを向上させて三好の魅力を広く PR していくことでも貢献したいと考えていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

受講者 17

私自身は、個人的に環境問題、環境保全に興味があります。活動により、そのための勉強ができると期待しています。また、その勉強したことを自然保全のための運動の根拠にできると期待しています。

勉強をしていると自然環境とともに人間の営みがあり、文化が形成されることが非常に面白いです。

人と自然が作り上げた傾斜地集落のような里山を残したいです。手つかずの自然という言葉はありますが、本当に手つかずの自然は全国に残っていないと思っています。ほとんどがすでに人間が手を付けたところなので、手を付けた以上、現状を維持保全するには間伐など手入れが欠かせないはずで、人が踏んではいけない湖沼などには、一つの例ですが木道を設置する必要もあるでしょう。そのためには、一般の人を始め行政がその必要性を感じていないと、公の予算は付きにくいと思います。ジオパーク構想が実現すれば、知名度も上がり、観光客が来れば税収も増えて、個人では維持しにくい町並み維持にも使えるよう、予算も付きやすくなると期待します。

J.W.ニコルさんの黒姫山の例のように、少しずつでも三好ジオの重要性と認知度が上がると嬉しいです。

新聞でボンネットバスの廃止の記事を目にしました。外から見ると廃止は非常に残念です。映画のロケーションも誘致されていたと思います。(クラウドファンディングやふるさと納税でどうにかならないでしょうか。。。)

他地域のジオパークと連携することにより、情報交換で互いに保全方法の解決にもつなげられると思います。また互いに送客に繋がると期待します。

三好の人たちが、自分の土地に興味を持ってきてくれる人たちと交流することで、自分たちが必要とされていることを自覚でき、気持ちの上でも健康度が増し、活動的になると思います。

ジオパーク構想が、環境省、国土交通省、経済産業省、文部省の縦割りでなく、横断的に保全する方向になるよう、下から(この言い方は嫌いですが)盛り上げられたら良いなと思います。

最後に、私自身はもっと調べて勉強して、すぐにジオパークについて脳ミソの引き出しがすぐに開くようにしたいと思っています。

受講者 18

三好市が抱える課題、いいえ日本の大半の自治体が抱える課題は、少子高齢化、人口減少です。

ジオパークの認定を受けるとこの課題が解決するなんて思うのは幻想にすぎないということは承知していますが、何を期待してジオパークを推進していくべきか。答えは「持続可能な地域の発展」である。

現在の人口減少の潮流を食い止めることはできるのだろうか？どこまで減少するのだろうか？消滅してしまうのだろうか？現在の状況を見るとまだまだ減少していくことは目に見えていると思う。

ジオパークを活用して現在よりも減少した人口ではあるけれども、減少をくい止めてそれを維持していくことは可能だと考える。若者の人口を増やし、高齢化率を下げ、人口構成がステディな状態にするいわゆる縮小均衡の状態を目指す必要がある。

若者人口を増やすために、ジオパーク認定を受けて、地域のジオ資源を生かしたアクティビティツアーを活性化し、若者の活躍する職場を確保する必要があります。そうすれば、ツアー客向けに関連産業も活性化すると思います。三好市の祖谷、大歩危地域ではすでにアクティビティツアーが導入されつつあると思えるが、中心地である池田町井川町、三野町エリアでのアクティビティツアーの充実が三好市の持続可能な発展には不可欠である。ジオパーク活動を通じて実現可能であると思うが、どの位の人口規模で均衡するのか予測しながら、ジオパーク認定の効果を楽しむ地域社会を作り上げていくことが肝要と考える。

受講者 19

人にとって人生を楽しむうえでレジャー・余暇は大切なものです。そこに大きな意味での環境問題や自然保護を組み合わせることができれば、地球にとっても大きな収穫です。その一役を担うことができるのは大変素晴らしいことだと思います。自分が年を重ねれば重ねただけのやり方で、いろいろな年代の人にも喜んでもらえ、自分も満足するガイディングができるのだと思います。

受講者 20

まず第一は、地域にある素晴らしいジオサイトなどの地域資源を「ジオパーク活動」をすることによって保全でき、後世へ残すことが出来ることです。そして、そういった素晴らしいジオサイトを地域住民が知ることにより、地域愛が生まれ、ふるさとを誇りに思う心が醸成されると思います。次にこのジオパーク活動は地質や地形などを知ることができ、防災にも役立ちます。ですから、郷土の歴史も含めた学校教育にも大変大切な学習になると思います。また、地域住民の方にも、土砂災害などの防災の知識を深めて頂けるかと思っています。またジオサイトの活用により、観光客やリピーターの増加がはかられ移住者の増加も見込めます。三好市の少子高齢化、限界集落が少しでも改善できたり、進行を遅らせることができれば良いのではと思います。そして、ジオパーク活動が一つの起爆剤となり、三好市をあらためて見直すきっかけとなり、若者の定着化や活性化が図られ、賑わいのある町となることを期待したいと思います。

最後に今までは、三好市には何もない、と言っていた人が、ジオパーク活動により三好の良さを知り、どの住民も人に聞かれば、三好はこんな凄い場所があるんよ！と自慢できる人が増えれば、これから、ジオパークを活用、残して行くことを「住民、行政、団体」などがいっしょになって考え、活動して行くことができると思います。

受講者 2 1

ジオパークとは、ジオ(大地・地球)+パーク(公園)。大地の営みとそれに関わって創り出された生態系や人々の歴史文化を学び、その土地だけではなく、まるごと地球を理解し、楽しむための場所。その地球の営みが残した遺産について学び(教育)、ツーリズムに活用し(広める)、地球が生きている限り繰り返される自然災害に備えて(防災)、長くその土地で暮らしていけることが大きな目標になると思う。

それは国連が提唱している持続可能な開発目標(SDGs)を達成するためだけではなく、この地球を将来の世代に自信を持って継承していくために必要なことだと思う。日本だけではなく世界中の人々が同じ思いで活動を進めている、世界中が協力し合っていると実感できる地球規模の活動に参加できることは、とても意義深いと思う。

これまで人類の勝手な都合で環境を破壊してきたお詫びに、ジオパーク活動をすることで地球を大切にしたいという思いが広がり、地球の寿命が延びるような未来を創っていくことが私たちの使命だと思う。

受講者 2 2

この設問が3つの中で一番答えにくい。例えば、公共の公園は、一般の個人や民間会社が管理するものではなく、本来は公的な団体が管理、運営するものと思う。日本、三好市のジオパークとは国土、地方公共団体の所有する土地に所属しているので、その管理責任は政府や地方公共団体にある。管理、活動は主として、公的な団体が自らの企画で、税金を消費しながら行う。

ジオパーク活動とは、より多くの人々に、広報活動により、ジオパークの存在を知らしめ、

存在を認知してもらい、運営、保護活動に参加してもらおうよう勧誘し、賛同者をより多く獲得することにより、また、ジオパークガイドングにも参画してもらい、ジオパークに親しみを持ってもらう。究極は、ジオパークを大人の遊びの場として親しんでもらう、地球に関する勉学の場、昔の地球に思いを馳せてもらう、地球に親しむことがジオパーク活動の目的と感じる。

公的機関は、ジオパークを長期で観察することにより、今後、地球環境がどう変遷していこうかと予測を立て、人々が、近隣に住み続ける上での問題発生する可能性を見極め、将来の地域行政に生かしていくのが目的。

私の個人的なジオパーク活動の意味合いは、海外からのツーリスト達が、初めは有名な観光地を主として訪れる。リピーターになれば、新しい興味の対象の一つとして、日本のジオパークに興味を示す人達が増えるだろうと予測している。例えば、米国のイエローストーン公園という自然豊かな場所に大勢の人達が訪れている。また、セドナという特に見るべき物といえ、川が侵食してできた岩の台地が所々に存在する。そういう場所は、なぜかスピリチュアル的には場が良いとされている。場の良い処は、人が住みよい場所、つまり、心、体が不思議と安らぐ場所になっている。三好市のジオパークの幾つかもそういう場の良い場所があるのではないか？スピリチュアル的、エネルギー的に場の良い場所というのは、是非とも地球の価値財産として長く、人々が親しみ、保護すべき存在。

受講者 2 3

自分の暮らす地域のことを広く、深く知る良い機会になると思います。そして、地域の自慢を来訪者に伝えることで交流の輪が広がり、地域の活性化につながることを期待できると思います。

受講者 24

三好のことを学び、これまでにない新たな発見をすることで自分の見識を深めたいと思い参加しました。地質のことや地域のことを学び、今後は機会があれば、実際におもてなしする役割でお客様にご案内してみたいと思います。

仕事柄、海外の方をご案内する機会が多いので、英語でどのようにご案内していけばいいのか少しずつ勉強していきます。日本に何度も訪れている知人に、まずは三好の素晴らしさをお伝えするところから始める必要があります。何があるのか、三好に来てもらう理由は何か、そして実際に訪れて良かったと言っていたらいいように、納得していただけるように工夫を重ねてみたいです。

受講者 25

地球も人と同じように生きている。だから大地は動く、しかし人は大地は動かないイメージを持っているため、動くとき驚き被害にあい、災害と呼ぶ。100年に1回の災害は人にとっては一生のうち経験するかしないかくらいの珍しいことだが、大地の時間では一瞬のこと。動く大地の上で暮らしているということ、自分の置かれた環境を深く知ること、自然を守ったり災害を防いだり身を守ることができる。

ヒトも地球の生態系の一つとして自覚して俯瞰で見ることができる社会になれば、利便性ばかりをもとめ、動物や植物をいためたり自然をむやみに壊す行為を減らせる社会になるか。大地、植物、生き物、人の暮らしがすべて互いに繋がり影響しあっている。

独り占めせず、お互いの暮らしを尊重し守る、より良い暮らしを続けていくためには、学び、生かし、守る。伝統や暮らしを守ることは地域を守ることになり、雨が山から川、そして海に流れ世界をめぐるように、小さな地域のことが世界に広がる、つながると思います。

三好ジオパーク構想の活動は、「何ちゃないと」思っている地域の人がジオを通して地域の宝、価値を見出し、「ここがええんよ」と自慢できる町になる。防災、観光、暮らし、伝統継承、文化・歴史の保全に役立つ。三好を好きになる、大切に思う、それは人や暮らし、日本や世界、地球を大切に思うにつながる。わたしは、それをお手伝いしたい。ジオパーク活動は人のつながりもボーダレスだと思います。

まずは、関心を持ってもらうこと。今、新型コロナウイルスの影響で観光客が激減するなどの影響がでました。その反面、都会志向から地域が見直されてきています。自然を味わうジオにとっては追い風とも言えるのではないのでしょうか。

まずは、自分が楽しいこと、楽しいことは人にも伝えたい。

受講者 26

率直に言って、経済の活性化でしょう。過疎が深刻であり、獣害で農業林業も打撃をうけ公共事業の減少で土木も振るわない中、ジオパーク構想でこの地を広く周知し、集客したり、興味を持ってもらった物品を買ってもらったりすることが非常に重要だと思います。経済を動かすのは人であり、そのためにはこの地を知ってもらって興味をもってもらうことから始めなければなりません。ジオパーク構想は地形だけでなく、そこから派生するさまざまな分野があるので、人々の多様な趣味や興味に対応することが出来、いつてきてもらうことが可能だと思います。

地質、地形、地理、野生動物、植物、食、儀礼、また祖谷の粉引唄・東祖谷の粉引唄など暮らしから生まれた民謡等各分野に積極的にリンクしていくことが重要ではないでしょうか。

前述したように発信力をもっともっと高めていただきたいと思います。上勝町はゼロウェイストの町として広くマスコミに取り上げられて有名になっていますが、成功の秘訣は住民が大きな恩恵を受けているという事でしょう。

みよしジオパーク構想で住民がうけられるであろう恩恵は、ツーリズムによる経済活性化、二次的な恩恵としてその経済から得られる税収での環境整備、特に防災面への予算投下ではないかと思います。

また、ジオパーク指定されることにより、住民の意識が高まって環境の保全活動に積極的になること、他地方からの人との交流（オンライン含む）での知識交換でさらに地元だけでは思い浮かばないアイデアを得ることもでき、さらに良い循環が期待できると思います。

ジオパーク指定により、住民がこの地域に誇りを持つことができ、さらに学習意欲が高まってガイドの数を増やすこともでき、また若い世代特に学生が中心となるネットによる広報活動など将来的な仕事に役立つノウハウを身に着けられることもできると思います。

受講者 27

<自分自身のため>

列車で移動していると、香川と徳島（県西部）の風景がトンネル一つで劇的に変わってしまいます。私はこのように風景が異なる背景・理由を知りたいと思っていたのですが、今回のプチガイドとジオガイドの研修を受講して、四国の成り立ちに関するイメージが少し分かりかけてきました。今後、地層・地形に関する様々な資料を読み、また現地「三好エリア」を歩いて知識を深めていきたいと思えます。容易なことではありませんが、ゆっくり時間をかけて整理します。「三好ジオパーク構想」の研修で学び知ったこと又今後学び知ること、日本のほかの地域でのガイディングにおいて生かすことができます。そして将来、私は三好市や四国の観光の発展のために恩返しをしたいと思っています。

日本人がこれまでの 2000～2500 年の時間スパンの中で創造し発展させてきた伝統・文化・生活・産業・科学そして歴史等は、ジオパークの時間スパンの中では小さな点に過ぎず、数十億年～数十万年の時間と自然が地層・地形・岩石を生み出し、四国・日本が出来上がってきているのだとわかってきました。

ちなみに、香川県内の山々及び瀬戸内海の島々の地形は、約 1400 万年前の火山活動の活発化で溶岩が大量に地上に噴出しその溶岩が長い時間をかけて浸食されたものです。我拝師山・讃岐富士・五色台・城山・庵治・屋島・小豆島・豊島・犬島・本島・広島・・・山口県周防大島等々全て同じ地形です。そしてそれらの多くは石の産地です。丸亀城は本島から、大阪城は小豆島・犬島から石垣用の石を掘り出したものです。また、道後温泉の皇室専用浴室「又新殿」は庵治石を使用しています。

今後私が勉強しなければならない分野が少しずつはっきりしてきました。